

足原のぞみ苑 デイサービスセンター
令和4年度 事業報告

1 概況報告

利用者の状況等

①平均年齢 86歳

②平均要介護度 2.24

今年度の稼働率は62.1%となっており、前年度は56.4%だった為、稼働率は上がっている。

また平均利用者数は24.9人となっており、25人という目標はほぼ達成する事が出来た。

上半期はコロナウイルス感染症の影響によりデイサービスの閉鎖も余儀なくされたが、その後の新規問い合わせが増えた。また、冬季に長期入院し利用者が減少することを見越して可能な限り受け入れていたが、今年度は入院者が少なく利用減少はなかった為、平均利用者数も上がっている。現在もまだ月平均が上がってきており、4月時点で29.7人となっている。

2 事業報告

① 自立支援

(取り組み)

- ・コロナウイルス感染症の影響でレクリエーションも選別されたが、フラワーアレンジメントやアロマオイルを使ったハンドマッサージなど、外出をなるべく控え、楽しめるような代替レクを提案した。

【評価】

- ・室内レクリエーションの充実を図る事が出来た。新たな楽しみと刺激になる取り組みを継続していきたい。

②健康管理

(取り組み)

- ・感染予防策としては、朝の送迎時、到着時、午後からも検温を行い体調不良者の早期発見に努めた。
- ・医療行為重視のカンファレンスでは看護職員も同席することで、医療職としての対応や考えを伝え、他職種との情報共有を図った。

【評価】

- ・体調不良等の早期発見を徹底し、職員・利用者共に今後も予防策には注視し様々な改善策に努めていく。

- ・介護度がアップして困難ケースが増えてきており、対応に苦勞する場面があるが、他職種との情報共有を図り、様々な対応策に努めた。

③機能訓練

(取り組み)

- ・歩行分析 AI アプリを使用し、継続的に動画をとる事で利用者の変化を見える化した。
- ・楽しみながら訓練を行うという考えのもと、レクリエーションと機能訓練の融合を推進した。主に手先を使った訓練をパッケージ化し定期的に行った。

【評価】

- 歩行評価を数値化し、良くなっている点や改善点を利用者・ご家族・ケアマネージャーに分かりやすく伝えることができた。
- ・訓練だけにとらわれず、目的を持った活動や生活実現に向かう視点を持つことが出来た。

④職員教育

(取り組み)

- ・職員個々の専門性を高める為に介護福祉士等の資格取得を推進した。
- ・新規採用職員に対し、指導職員を配置し育成計画を立て、定期的に指導者の助言を行うことで、職員教育の充実を図った。

【評価】

- ・今年度は認知症実践者研修2名修了。介護福祉士の試験に1名が合格した。
- ・育成計画を立て具体的に目標を設定したことで、指導職員が目標達成までの手段や手順を整理することが出来た。

⑤地域活動

(取り組み)

- ・安全パトロールやまち美化活動は徐々に参加することが出来ている。市民センター主催の文化祭はデイサービスで一日を通した活動紹介（写真掲示）を行った。

【評価】

- ・コロナウイルス感染症により、地域の方と交流する機会は少なかったが、コロナ禍でも保育園や学童に励ましの手紙を送ったり、また保育園からビデオレターが届いたりと違った方法で繋がることが出来た。

⑥家族交流

(取り組み)

- ・コロナウイルス感染症に関する情報などを月に一度発行している新聞や手紙などを活用し積極的に情報提供した。
- ・送迎時にはご家族と少しでも話をし、情報の共有や介護の悩み事を聞き一緒に考える姿勢を示す事で良好な関係が築けるよう努力した。

【評価】

- ・安心してサービスを利用して頂く為に、ご家族の不安や心配を少しでも払拭できるように努めた。
- ・送迎時や連絡帳を通じ情報交換をしながら、ご家族の希望を受け止め、信頼関係を築き、安心してサービスを利用して頂けた。

⑦職場環境

(取り組み)

- ・新型コロナウイルス感染対策として職員の情報共有ツールであるチャットワークや研修では Zoom を活用し、職員の感染拡大防止に努めた。
- ・毎日の腰痛体操やボディメカニクスのポイントが理解できる様、職員研修に取り入れた。

【評価】

- ・プライベートでは行動制限の協力や特養への応援をお願いしなければいけない事もあったが全職員で尽力した結果、最小限に食い止める事が出来た。また、職員の不安や心配を少しでも取り除く職場環境に努めた。
- ・職員全員が参加できる様に、朝礼で体操しておりストレッチ効果や腰痛予防・に繋がっている。また、研修を通して職員自身が身体のケアを考え、現場で活かせる知識と技術を学ぶ事ができた。

⑧事業目標

- ・今年度は新規利用者 21 名獲得できており、問い合わせも増えてきている為次年度は更なる高稼働を目指すことを目標とする。
- ・人員不足という課題はあるが時間に制限のある非正規職員も視野に入れ、忙しい時間帯に重点を置くことで効率的な事業運営に努めた。
- ・部署の適正費用や職員配置について、他部署と連携し検討を継続している。